ＤＶＤ視聴用テキスト　第１巻　タイトル：「日本語」を教えるとは

【1】国語教育と日本語教育の異なる点

◆日本語教育の対象：日本語が　母語　でない子ども・大人

◆国語教育の教育目標　①　言語の操作能力を高める。
②　知的関心を持たせる。
③　心を豊かにする。

◆日本語教育の教育目標　子どもの場合、日本に滞在中は
→　第二言語として日本語を生活環境の下で使っていく。
①　４つの技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく身につける。
②日本語の　運用能力を高める。

【2】各種用語のちがい

	国語教育	日本語教育
品詞の捉え方	形容詞、形容動詞、	い形容詞、な形容詞
	助動詞	活用の一部として扱う。
動詞の活用の種類	五段活用	グループ１
	上一段活用、下一段活用	グループ２
	カ行変格活用、サ行変格活用	グループ３

日　本　語　教　育　に　お　け　る　主　な　動　詞　の　活　用　形

活用形（国語教育での名称）	グループ１	グループ２		グループ３	
ない形（未然形）	書かない	食べない	見ない	しない	こない
ます形（連用形）	書きます	食べます	見ます	します	きます
辞書形（終止形・連体形）	書く	食べる	見る	する	くる
ば形　（仮定形）	書けば	食べれば	見れば	すれば	くれば
命令形（命令形）	書け	食べろ	見ろ	しろ	こい
て形　（連用形＋て）	書いて	食べて	見て	して	きて
た形　（連用形＋た）	書いた	食べた	見た	した	きた
意向形	書こう	食べよう	見よう	しよう	こよう
禁止形	書くな	食べるな	見るな	するな	くるな
受身形	書かれる	食べられる	見られる	される	こられる
可能形	書ける	食べられる	見られる	できる	こられる

【3】日本語指導の留意点（概論）

（1）日本語指導　＝「文型」で日本語を教えること。

最初に文法用語を暗記させて、文法の解説をしない。

⇒　新しい「文型」が出てきたら、その都度「動詞の形」を教えていく。

＜例＞　・カタカナを　書くことが　できます。

・名古屋へ　行ったことが　あります。

（2）初期段階で日本語の音声的な特徴が身に付くように心がける。

日本語が上達してから、直そうとしても「発音の癖」が固まってしまっていて、

直しにくい場合が多い。

◇促音

◇長音

◇清音と濁音

◇文末のイントネーション　など

（3）「聞く・話す」も大切だが、初期段階から「読み・書き」にも力を入れていく。

「読み・書き」に取り組まなければ、教科学習への意欲を失わせることにつながってしまう。

（4）学習者の自国文化・習慣も尊重するが、日本の学校生活の行動様式や日本語のコミュニケーション

スタイルを経験させることも重要。

（5）どのレベル〔初級・中級・上級〕の日本語指導であっても、教科学習とのつながりを意識して行う。